

保育方針

- 未来を担い生きる力となる子どもたちの全面発達を保障する努力をする。
- 保護者の労働を保障すると共に、保護者がより良い条件で働き続けられるよう保護者と共に努力する。
- 保護者と共に子育てについて知恵を出し合い、学び合い、子ども、保育者が共に育ちあう保育所づくりをめざす。
- 子どもの人権を守り地域の連帯の中で、地域の人々と力を合わせ保育条件の向上に努め、平和な社会をつくる努力をする。

保育目標

- 健康な子ども
- よく見、よく聞き、よく考える子ども
- 自分を表現できる子ども
- 仲間の中にいることを喜び、仲間を大切にすること

実践・評価・反省

～いよいよ、つくしにも押し寄せた第6・7・8波～

・今年度はコロナウイルスが第6波～第8波まで押し寄せ、状況に合わせて、学級閉鎖・休園をしてきた。第8波では、多くの児童・職員が感染し、園を運営していく面に置いて、どうにかやり繰りして乗り切ったように思う。また、0・1歳児においては、風邪症状が一旦増えだすと、一気に広まったり、重症化・長期化したりする傾向があったようにも感じる。ヒヤリハット・事故報告では、転倒の事故が多かった。また、指をドアに挟み、爪が剥がれる・小指を骨折するなど大きな事故になるケースもあった。

～コロナ禍においても一歩前へ～

コロナ感染症と上手に付き合う方法を模索してきたここ1～2年。今年度は、感染症との折り合いの付け所を、一歩前に進んで考えようと日々の保育・行事を行ってきた。懇談会・プール・運動会・5歳児のお楽しみ保育・生活発表会と、人数制限の幅を広げたり、中止にするのではなく、その次に出来る機会を見定めたりしてきた。しかし、延期する事で、次の行事との期間が短くなり、余韻に浸る時間があったらどうか・次の行事への準備期間としてはどうだったのだろうかと感じた。散歩先だった公園が改修工事になったり近所の交通量が変わってきたりと、気軽に散歩できる環境が変化している。そんな近所の状況下でも、子どもの体力や遊ぶ大切さを考え、安全に楽しめる方法を探って散歩に出かけていたと感じた。また、子どもの「やりたい」活動を叶えるような保育活動を多く取り入れ、子どもと一緒に考え、不思議がり、発見していた一年だったとも思う。こういう思いが子どもの中に育つ事で、物事・強いては人に期待する心や、「学び」が楽しいと感じる心が育つのだと感じた。子どもの心にそういう気持ちが育つまでの大人の関わりもまた大切なのだろう。

子どもにとって気持ちの良い生活の流れや関わりを保護者に伝える事と、保護者支援としてまず言われる「傾聴」「共感」とのバランスの難しさを感じた。保護者の思いに寄り添う事は大切だと分かりつつ、子どものより良い育ちや集団生活としての園を考えると、保育者の立場として伝えなければという思いが強くなることもある。

～傾聴しつつの保護者支援～

・今年度、リハ、すこやか相談、こころの発達相談支援センター等に通っている子は4名、必要な時に懇談を持ってきた。一人ひとりの発達にあった関りを大切に集団生活を行い、保護者の思い、願いにも傾聴しながら保育を行ってきた。

～その人らしさ・・・一人一人の思いを大事に～

・いろいろな年齢の職員がいて、職員の人数分の様々なことへの経験があり、育った環境も性格もいろいろな職員集団。職員皆同じ方向を向きながらも“その人らしさ”を活かしたそれぞれの保育の展開。互いに良いことも、ちょっと耳の痛いことも、相手の意見に耳を傾け、受けとめる、受け入れることができているかな・・・互いに認めあえていたかな・・・難しさもあったな・・・と振り返り悩む年であった。また、“主体性を大事にする保育”の大切さを感じながらも、実際の保育の関わりの中で「主体性とは?!」と考えることがある。それぞれの考え、捉え方もあると思うので、皆で考え、深め合っていきたい。